

認知言語学的手法を応用した英語前置詞教材の開発

イントロダクション

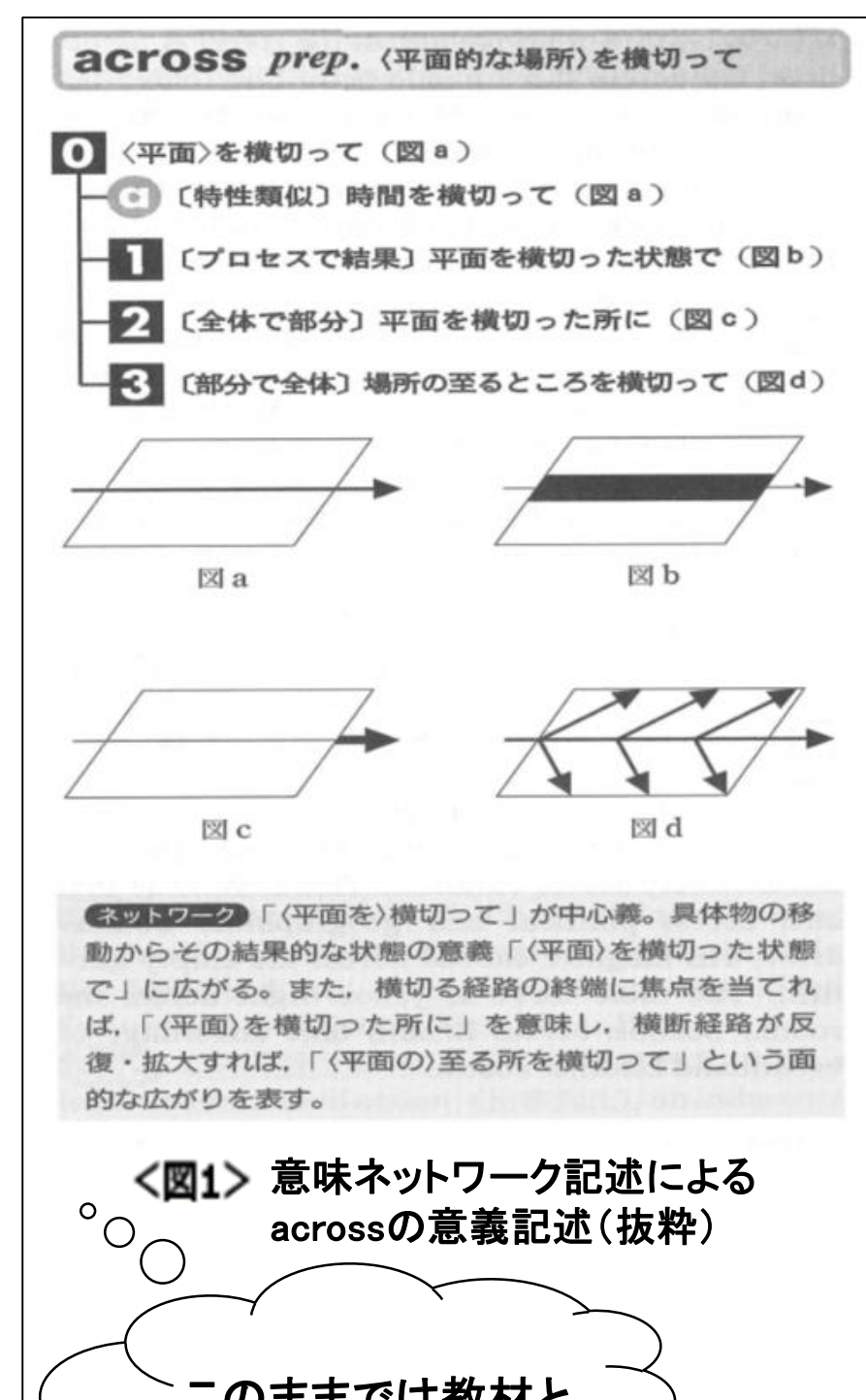
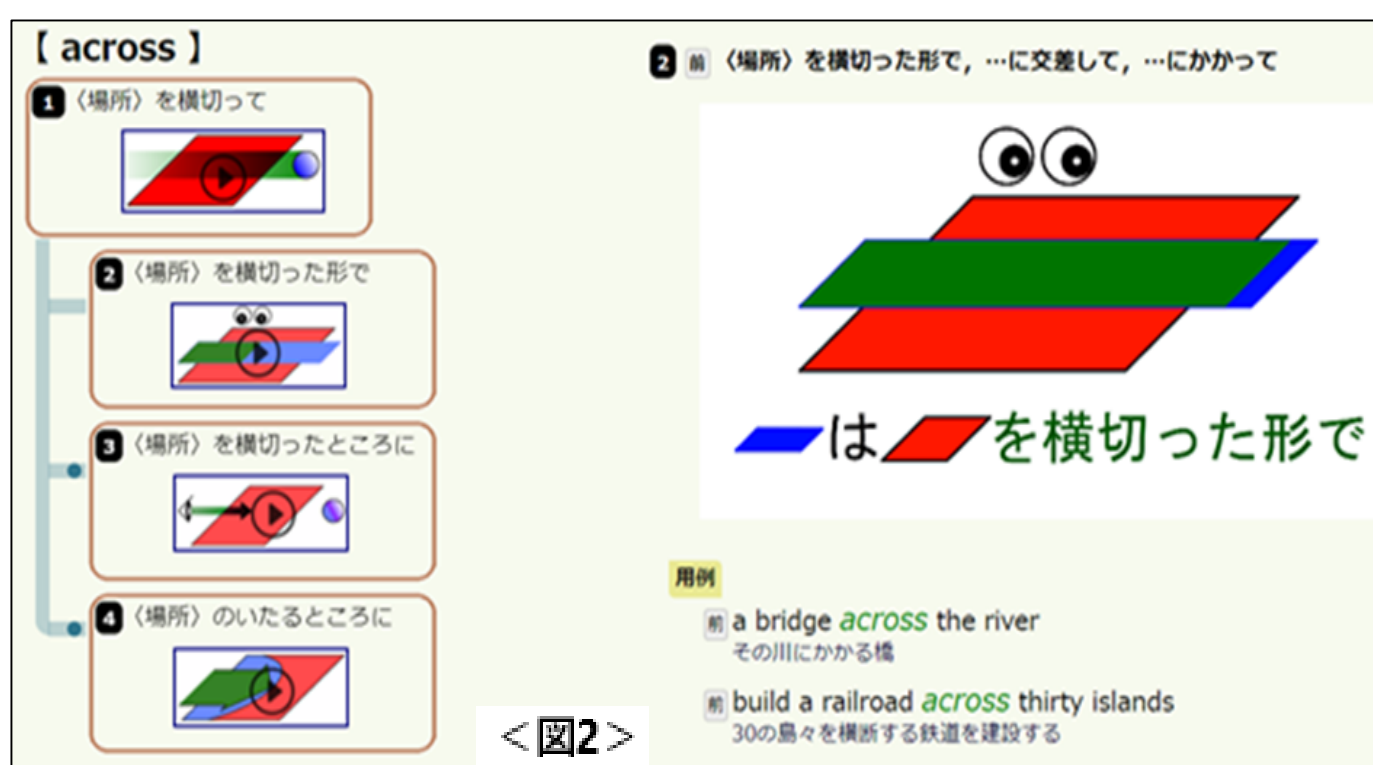
英語習得において、しばしば躓きの原因となる多義語の前置詞であり、また認知言語学における多義語研究が前置詞に関して最も進んでいることから、認知言語学の知見を生かした中学生向けオンライン教材『アニメで学ぶ英語前置詞ネットワーク辞典』を開発した。認知言語学で言う「スキーマ図」のアニメ化がポイントである。

研究の背景

土台となるのは、**メタファー・メトニミー・シネクドキ**という3種の意義展開パタンにもとづいて意味ネットワーク全体を捉え、多義語の包括的記述を試みる**意味ネットワーク記述**による多義語研究である。

記述方針

専門用語を使わずに意味ネットワーク記述のエッセンスを維持するため、色使いに意味を持たせる。スキーマ図をアニメ化するにあたり、ランドマークにあたる要素を「赤」、トラジェクターにあたる要素を「青」で示し、その意味するところを「緑」で表し、すべてのアニメにおいて、この色使いを統一することで、言語的な解説によらず、意義と意義との類似性・関連性を体感できる工夫を施している。



具体例

across

- ① 〈場所〉を横切って
- ② 〈場所〉を横切った形で
- ③ 〈場所〉を横切ったところに
- ④ 〈場所〉のいたるところに

たとえば、図2の **2** のサムネイルをクリックすると画面右にアニメが再生され、その下に例文が表示される。アニメ化によって「動き」の要素が加わり、従来のスキーマ図では表現しきれなかった側面が表現可能になった。

たとえば **①** と **③** の違いは中学生には難しい。だが **①** の基本のアニメに眼球を加え、**視線**をアニメ的な動きで表すことによって、2つの語義の類似点と相違点をわかりやすく表現することが可能となった。(図3参照)

前置詞の各意義のつながりに関して、言語的にではなく、体感的に理解を促すことができる。

